

“全部”、“所有”、“一切”に関する一考察

費 燕

中国語の“全部”、“所有”、“一切”はいずれも『汉语水平词汇与汉字等级大纲』¹⁾における甲、乙レベルの単語で、中国語検定試験4級²⁾にすでに出ている常用単語である。辞書を調べると、いずれも「すべて(の)」「全部(の)」「あらゆる」という意味であるが、いつ、どれを使えば最も適切であるか、日本人学習者は、戸惑い、難しいと感ずるものである。ネイティブスピーカーに聞いても、その三語の違いをなかなかはっきり答えられるものではないだろう。三語の相違は一体どこにあるのか、それを究明するのが本稿の目的である。

本稿においては、大量の実例調査をベースに、三語の品詞、文法機能、文中に示される意味、発話者が伝達しようとする情報、これらを考察、解説することを試みる。

1. “全部”、“所有”、“一切”の品詞

先ず例文を見よう。

- ・这只是一部分，还不是全部。(これは一部だけであって、全部ではない。)(状語名詞³⁾)
- ・今天的工作全部结束了。(今日の仕事はすべて終了した。)(状語名詞)
- ・所有的人都为他高兴。(すべての人々が彼のために喜んだ。)(区別詞⁴⁾)
- ・遗产全部归他所有。(遺産はすべて彼の所有である。)(動詞)
- ・一切后果由你来负。(すべての結果はあなたに責任をもってもらう。)(代名詞)

“全部”は状語名詞(名詞と副詞の二つの品詞をもっているという考

え方もある、本稿では状語名詞という言い方をとる)、“所有”は区別詞(非述形容詞⁵)とも言うが、本稿では区別詞という言い方をとる)と動詞、“一切”は代名詞である。うち“所有”は動詞として使う時、“すべて”や“全部”、“あらゆる”という意味合いがないため、本稿の分析対象にしない。

三語は日本語にすると、同じ意味になるが、品詞が全く違う。文中においての文法機能も当然違いが出る。しかし、文法機能が全く違うなら、悩むことがないが、三語は同じ文法機能ももっている。同じ文法機能ももっていても、同一文において三語が置き換えられる場合もあれば、置き換えられない場合もある。置き換えることができても、三語のニュアンスに微妙な違いが見られ、学習者に頭を抱えさせる。三語はどういう文法機能もっているかを見よう。

2. “全部”、“所有”、“一切”の文法機能

北京大学漢語語言学研究中心⁶と人民日報のデータベース⁷及び辞書など200例以上の文を考察した結果、三語の文法機能を以下のようにまとめた。

2.1. どれも名詞の前に置いて、名詞を修飾することができる。いわゆる連体修飾語になれる。

1) 这就是刘晓明的全部排球履历。

(これは劉曉明さんのバレーボールの全履歴である。)

2) 一切困难都是可以克服的，办法总比困难多。

(あらゆる困難がみな克服できるもので、(克服する)方法は常に困難より多いからだ。)

3) 所有世博园区参观者，均需最晚在晚上9时前入园，并于入园当晚12时前离开园区。

(いずれの万博会場の来場者も、皆遅くとも夜9時前に入園し、それに入園当日の夜12時前に会場を離れなければならないのです。)

2.2. “全部”、“一切”は目的語になれる。

- 4) 抓住了读者便抓住了一切。
 (読者の心をとらえれば、すべてをとらえたことになる。)
- 5) 这只是问题的一个方面，不是问题的全部。
 (これは問題のひとつの側面であるに過ぎず、問題の全部ではない。)

2.3. “一切”は主語になれる。

- 6) 只要好好工作，一切都会再有的。
 (まじめに働けば、すべてが元どおりになるはずだ。)
- 7) 如果你拿他当孩子看待，一切就都迎刃而解了。
 (もしあなたが彼を子供として扱えば、すべてがみなすらすら解決する。)

2.4. “全部”は動詞を修飾することができる。

- 8) 被压抑多年的求知欲望，一下子全部释放出来了。
 (何年も抑えられてきた知識欲を、いっぺんに全部解き放つことができた。)
- 9) 明年年底，河南省所有事业单位岗位设置管理工作要全部完成。
 (来年の年末に、河南省のすべての事業機関における職務設置管理業務を全部完成する予定だ。)

表に示すと、以下の通りである。

	主語	述語	目的語	連体修飾語	連用修飾語	補語
全部	×	×	○	○	○	×
所有	×	×	×	○	×	×
一切	○	×	○	○	×	×

以上により、三語ともに有する文法機能は連体修飾機能だということが分かる。しかし、名詞を修飾するからといっても、三語が一様に使えるというわけではない。次の3においては、連体修飾語として三語ともに使える場合、いずれか二語が使える場合、いずれか一語しか使えない場合を明らかにする。そして、それぞれの意味、用法、語用範囲を考察する。それは本稿の中心課題である。

3. 連体修飾語になる“全部”、“所有”、“一切”の相違

連体修飾語になる“全部”、“所有”、“一切”について、「“所有”しか使えない文」、「“全部”、“所有”が使える文」、「“一切”、“所有”が使える文」、「“全部”、“一切”が使える文」、「三語ともに使える文」の五つに分けて考察、分析していく。

3.1. “所有”は使えるが、“一切”、“全部”は使えない。

10) 我们这里所有 (*全部 / *一切) 的办公室都用上了电脑。

(ここにある全ての事務室が全部コンピューターを使っている。)

11) NBA 的所有 (*全部 / *一切) 球队都有自己的吉祥物。

(NBA に所属する全てのチームがそのチーム専用のマスコットを持っている。)

12) 现在, 放眼世界, 几乎所有 (*全部 / *一切) 国家的乒乓球高手都是原中国籍。

(今、世界に目を向けると、殆ど全ての国の卓球選手の原籍は中国であることが分かる。)

13) 不是所有 (*全部 / *一切) 股票都会涨, 所以买的时候要特别小心。

(あらゆる株が全部値上りするとは限らない。買う時に慎重にすべきだ。)

四つの例文に出た“所有”に修飾される名詞“办公室”、“球队”、“国家”、“股票”は、それぞれ一つの独立した個体であると見られる。この個体がある一定範囲内に (または特に範囲を示されていなくてもよい) 複数存在していて、それを $X_1, X_2, X_3, \dots, X_n$ で示そう。例 10 には“我们这里”、例 11 には“NBA”という範囲が明示されていて、「修飾語 (的) + 所有 (的) + 名詞」の形式をとっている。例 12、例 13 には“所有”の前に修飾語がなく、「所有 + 名詞」の形式をとっている、もちろん「所有 (的) + 名詞」の形式をとるのも可能である。例 12) 13) は文面上に特に範囲が明記されていない例であるが、「世界にある国家」、「株式市場に上場されている株」を指していることが察せられる。このそれぞれの独立している個体の“办公室 (事務室)”が X_n 個、“球队

(球技チーム)”が X_n 個、卓球チームを持っている“国家”が X_n 個、“股票(株)”が X_n 個存在していて、“所有”を前に置くと、発話者が独立に存在している個々の個体を意識しながら、その一個一個が漏れなく、その総和を強調することになる。このような場合、“全部”と“一切”は一般的に使わない。

3.2. “全部”、“所有”は使えるが、“一切”は使えない。

14) 他把全部 (/ 所有 / *一切) 的精力都放在了写作上。

(彼はすべての力を創作に注ぎ込んだ。)

15) 梵高把全部 (/ 所有 / *一切) 的感情化作色彩和线条, 如他笔下的向日葵, 成为永不熄灭的生命火焰。

(ゴッホはすべての感情を色と線に表わし、彼が描いた向日葵のように、永遠不滅の生命の炎になった。)

16) 他拿出自己的全部 (/ 所有 / *一切) 积蓄, 在1926年创办了晓庄师范。

(彼は自分のすべての貯金を出して、1926年晓庄师范学校を創立した。)

17) 这是我的全部 (/ 所有 / *一切) 财产。

(これは私の全財産だ。)

上記の例14) ~ 17) は、同じく連体修飾語になる例であるが、“一切”は使えず、“全部”と“所有”は使える。“全部”と“所有”の後ろにある名詞“精力”、“感情”は抽象名詞⁸⁾で、“积蓄”、“财产”は集合名詞⁹⁾である。抽象名詞であっても、集合名詞であっても、ひとつの総体を表わし、個別数量詞には修飾されず、集合量詞には修飾されることができるとある名詞である。ここに出た四つの名詞はそれぞれ渾然一体とした総体を表し、1個、2個、3個というふうには数えることができず、個体に分けることもできない。“全部”と“所有”に修飾され、総体の全体を指しているのである。“全部”を使うと、“精力”、“感情”、“积蓄”、“财产”そのもの全体を強調しているのに対し、“所有”を用いると、“精力”、“感情”、“积蓄”、“财产”を構成している、内部にあるすべての物を強調することになる。発話者が自分の伝達したい意図により、どちらかを選ぶことになる。例文14)の“精力”は「彼の精力」、15)の“感情”は「ゴッホの感情」、16)の“积蓄”は「(彼)自身の蓄積」で

あること、17)の“財産”は「私の財産」であることをはっきり書いてある。というのは、四つの例文に出た“精力”、“感情”、“积蓄”、“財産”は、それぞれ一定の範囲に限定された特定の物である。

3.1と3.2から“所有”は範囲を限定されてもされてなくてもよい、後ろの名詞は独立する個体であっても、ひとつの総体であってもいいようだが、“全部”は一定の範囲に限定された特定の物、しかもこの特定の物は、渾然一体とした総体を表す語でなくてはならない。“一切”はこういう場合に使うことはできない。

3.3. “一切”、“所有”は使えるが、“全部”は使えない。

18) 一切 (/ 所有 / * 全部) 困难都是可以克服的, 办法总比困难多。

(あらゆる困難が克服できるはずだ、(克服する)方法が困難より多いからである。)

19) 在兴奋剂检测的铁证面前, 一切 (所有 / * 全部) 解释都是徒劳的, 只会“越描越黑”。

(興奮剤検査の動かぬ証拠の前で、あらゆる(すべての)解釈は全部無駄で、逆にますますぼろが出るばかりだ。)

例18)、19)に出た名詞“困难(困難)”、“解释(解釈)”を見れば、まずある特定の範囲のものに限定されていないこと、また特定のものを指しているのではなく、広い意味でのすべてを包括する“困難”、“解释”を言っていることが分かる。“一切”をその前に用いて、困難、解釈でさえあれば、いかなる種類、性質を問わず、その全部を概括することになる。すでに出た困難、解釈を含めれば、これから出るあるいは出る可能性のあるもの、予想のできるもの、予想のできないものも含める。“一切”の語意は「ありとあらゆるもの」を強調することにあり、具体性がない。これに対し、“所有”を使うと、すでに存在しているさまざまな困難、解釈があって、そのすべての総和を指している。3.1にすでに述べたように“所有”の語意は主に同一資格にある個体の総和、すなわち存在する個体の $X_1, X_2, X_3, \dots, X_n$ が一個も漏れなく、そのすべてを強調することにある。“一切”の語意の指す範囲は“所有”より大きい。この場合、“全部”はまず一定の範囲が必要である、また修飾する名詞が特定の物でないと難しい、それに独立した個体からなる総体というとらえ方をせず、渾然一体とした総体としてとらえるため、これらを

修飾するのにはなじまないと考えられる。

3.4. “全部”、“所有”、“一切” 三語ともに使える

20) 旅行中发生的全部 (/ 所有 / 一切) 费用由我负担。

(旅行中に発生した全ての費用は私が負担する。)

21) 你们提出的全部 (/ 所有 / 一切) 要求我们都答应。

(あなた達が出したすべての要求を全部受け入れる。)

22) 她出国的全部 (/ 所有 / 一切) 手续都办好了。

(彼女が出国するすべての手続きはもうすませた。)

ここにある三つの例文に、“全部”、“所有”、“一切” 三語いずれも使える。だが、表された意味は違う。

まず“全部”を使うと、発話者は意識的にすでに発生した“費用”、相手が出した“要求”、出国する前に必要とした“手続”をひとつの総体として見て、その全体を指して言っていることになる。

“所有”を使うと、すでに発生した費用、相手が出した“要求”、出国する前に必要とした“手続”が複数存在していることを前提にして、発話者がそれを意識しながら、複数存在している費用、手続き、要求を一個一個漏れなく総括して、その総和を指して言っていることになる。

“全部”または“所有”を用いた場合、例 20)、21)、22) の日本語訳は、それぞれ「旅行中に発生した全ての費用は私が負担する」、「あなた達が出したすべての要求を全部受け入れる」、「彼女が出国するすべての手続きはもうすませた」になる。

“一切”を使う場合、費用、要求、手続きを、総体または複数の個体として見るのではなく、すでに存在している、これから出てくる、また存在の可能性がある、ありとあらゆる種類の費用、手続き、要求を指すことになる、どれも特定性はない。日本語に訳すと「旅行中に発生する全ての費用は私が負担する」「あなた達が出すすべての要求を全部受け入れる」になる。

例 22) の訳は“全部”と“所有”を用いる場合、決まった出国用の手続きがあって、そのすべてが済んだという情報は伝わるが、つまり手続きは特定なものであるという意味になる。それに対し、“一切”だと、決まった手続きは勿論のこと、手続きであれば規定の項目以外、聞き手の知らない、予想外の手続きも全部済んだから、これ以上出国にかかわ

る手続きはないので、ご安心ください、というニュアンスまで伝わってくる。以上のまとめにより、以下の三つの会話文にそれぞれ“全部”、“所有”と“一切”を入れてみよう。

① A：这次旅行很愉快吧？

(今回の旅行は楽しかったでしょう)

B：是。不过就是费用太高，花了一万多人民币。好在全部费用都由你们公司给负担了。

(ええ。ただ費用が高すぎて、一万元余りもかかってしまいましたね。幸いすべての費用は皆貴社が負担していただきました。)

② A：这次旅行很愉快吧？

(今回の旅行は楽しかったでしょう)

B：是。不过就是费用太高。飞机、火车六千多、住宿三千多、吃不算贵，也花了近一千，还不算游览门票、车费什么的。

(ええ。しかし費用が高すぎましたよ。飛行機、自動車は六千元余り、宿泊は三千元余り、食べるのに高くはなかったですが、千元ぐらいもかかり、それに観光用入場券、車代なんかは含まれていません。)

A：你放心，所有费用都由我们公司负担。

(ご安心下さい。あらゆる費用は全部我が社が負担するよ。)

③ A：怎么样一起出去旅行一趟吧？

(一緒に旅行に行きませんか)

B：旅行？这个季节机票、住宿费可都是最贵的时候。

(旅行ですか。今の季節は航空券も宿泊も一番高い時期ですよ。)

A：你放心，旅行所需一切费用都由我们公司负担。

(大丈夫です。旅行に必要なすべての費用は我が社が負担しますから。)

①は“全部”で、②は“所有”で、③は“一切”を使うほうがよいだろう。①の“全部”は、旅行費用にかかった一万元余りの人民元というまとまった費用のすべてを指している。②の“所有”は、旅行にかかった費用交通費、宿泊費、食事代などひとつひとつの個別の出費の総和を指している。③の“一切”は、旅行にかかるすべての費用—明らかに

かる交通費、宿泊代、食事代など以外に、現時点で想定していない旅行に使うすべての費用を指すことになる。

以上、連体修飾語になる“全部”、“所有”、“一切”の意味・用法について分析した。

4. 三語の連体修飾語以外の機能について

4.1. 目的語になる“全部”、“一切”

23) 这只是其中的一部分，并不是全部。

(これはわずか一部だけで、全部ではない。)

24) 这就是我所了解到的全部。

(これは私が調べてきた内容のすべてだ。)

25) 当你将一切归零，给自己时间，给自己空间，重新认识世界，就会感到原来生活没有自己想像的那样糟。

(すべてをゼロに帰し、自分に時間と空間を与え、世界を新たに見直すと、本来の生活が、あなたの想像しているようには悪くなかったと悟るはずだ。)

26) 他将拥有的一切放下了，毅然踏上了寻“经”之路。

(彼は持っているすべてを放して、毅然として「経」を探す道を踏み出した。)

“一切”も“全部”も目的語になれる。“所有”は連体修飾語にしかないため、この使い方はない。“一切”は動詞のほか前置詞の目的語にもなるが、“全部”に関しては前置詞の目的語になる例は見つからなかった。“全部”は目的語になる場合、よく前に動詞“是”を使う。またひとつの事物の全体を指すため、よく部分を表す表現と対照に出してくる。例えば、“一部分”、“一个侧面”、“一个方面”、“局部”¹⁰⁾など。例 25)、26) 及び 4) の「将一切归零」、「将拥有的一切」、「抓住了一切」の“一切”は具体的に何を指しているのか言えない。漠然として具体性はないのが特徴である。

4.2. 主語になれる“一切”

27) 成绩和辉煌都属于过去，一切要从零开始。

(成果も栄光も過去のものである、すべてがゼロからスタートし

なければならないのだ。)

28) 田野里的一切都是那么寂静。

(田んぼの中のものすべて、あんなに静かである。)

29) 这里一切都好, 请您放心。

(ここはすべて大丈夫だ、どうぞご安心ください。)

例 27)、28)、29) にある“一切”はどれも主語である。あらゆることを指して、何か特定の人や事物に的を絞ったものではない。“一切”は主語になれるが、“全部”と“所有”はなれない。“全部”は名詞であるが、中国語にあるごく少ない「状語名詞」である、主語になる例は見つからなかった。

4.3. 述語を修飾する“全部”

30) 经检测, 水质各项指标全部正常。

(測定によると、水質の各項目の指標は全部正常である。)

31) 最近这个书店的书全部都打七折。

(最近この本屋の本はすべて3割引で販売している。)

32) 由于展出的艺术作品全部为学生创作, 所以颇受在校师生的欢迎。

(展示されている芸術作品は全て学生の手により創作されたものなので、大いに教員と学生の歓迎を受けている。)

33) 上海世博局今天宣布, 上海世博会期间平均每天超过 100 场的文化演艺活动, 将全部免费开放。

(上海万博事務局が今日、上海万博期間中、毎日平均百を超える文化演劇イベントを行い、全て無料で開放すると発表した。)

例 30) ~ 33) の“全部”は、複数の事物を表す語またはフレーズの後ろにあって、前の語またはフレーズが示すすべてのものを総括し、状語の働きを果たしている。

前出の例 10) 11) の文だが、文中の“所有”を取って、“办公室”、“球队”の後に“全部”を入れると、つまり文は「我们这里的办公室全部都用上了电脑。(ここにある事務室が全部コンピューターを使っている。)」、「NBA 的球队全部都有自己的吉祥物。(NBA に所属するチームが全てそのチーム専用のマスコットをもっている。)」になる。こういう場合“全部”は動詞“用”、“有”の修飾語になり、文として成立することになる。しかし、例 12)、13) は例 10)、11) のように変えることは

できない。理由は10)、11)に「ここにある」、「NBAに所属する」という特定の範囲を示す語があるが、12)、13)にはないからである。

“全部”は、中国語の名詞にあるごく少数の「状語名詞」である。つまり述語を直接修飾できる(連用修飾語になれる)名詞である。代名詞“一切”、区別詞“所有”は、こういう働きをもたない。

4.4. その他の表現形式

- ① “一切的一切”という形式をよく見かける。何もかもという意で使われる。

一切的一切，他都在所不顾。

(彼は何もかもかまわなくなった。)

- ② “这一切”の形で、よく文の中で主語または目的語として使われる。这一切都说明它的发展潜力巨大。

(これらのすべては、その潜在的発展力が極めて大きいことを示した。)

历史见证着这一切，也必将铭记这一切。

(歴史はこれらすべてを証明する、しかも必ずこれらすべてを銘記する。)

- ③ “所有”は“一切”または“这一切”を修飾することができ、“所有(的)一切”、“所有这一切”の形でよく使われる。“全部”はそれができない。

地震让所有这一切在瞬间粉碎。

(地震はすべてをあっという間に壊してしまった。)

我必须使出自己所有的一切。

(私は必ず自分が持っているすべてを出しきらなければならない。)

- ④ “所有的所有”という形もとれる。

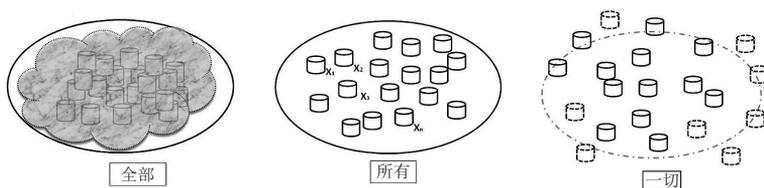
我开始恨自己，恨所有的所有，更恨自己的所谓追求，所谓理想。

(私は自分を憎み始めた。すべてのすべてを憎み、更に自分のいわゆる追求、理想を憎んだ。)

5. まとめ

- ① “全部”、“所有”、“一切”は品詞が違う。

- ② “全部”は連体修飾語、連用修飾語、目的語になれる。“一切”は主語、目的語、連体修飾語になれる。“所有”は連体修飾語にしかなれない。
- ③ “全部”と“所有”は名詞を修飾する場合、“的”をつけたりつけなかったりするが、“一切”には通常つけない。
- ④ “一切”の前に特定である範囲の制限があってもなくてもよい。外延の制限がなく、すでに存在している物、まだ出ていない物、その事物についての「ありとあらゆるもの」を含める。具体性がないため、特定性をもたない。
- ⑤ “所有”の前にある特定の範囲制限があってもよいし、明確な範囲制限がなくてもよい。同一資格にある一個一個の個体の総和、すなわちある範囲内に存在する個体の $X_1, X_2, X_3, \dots, X_n$ すべてを指す。外延性をもたない。具体性を持つ。
- ⑥ “全部”は、一定範囲内にある特定の総体の事物全体を指す。この総体の事物は抽象名詞や集合名詞に限らない。また、この総体の事物は外延の部分がない。具体性をもっている。
- 図で示すと、以下のようになる。



注

- 1) 国家对外汉语教学领导小组办公室汉语水平考试部 (1992) 《汉语水平词汇与汉字等级大纲》，北京语言学院出版社。为了给 HSK 的命题工作提供依据，编制了「汉语水平词汇和汉字等级大纲」，颁布一个甲、乙、丙、丁四个级别共 2905 个汉字的汉字字表，其中甲级字 800 个、乙级字 804 个、丙级字 601 个、丁级字 700 个。颁布了一个包括甲、乙、丙、丁四个级别共 8822 个词的汉语词表，其中甲级词 1033 个、乙级词 2018 个、丙级词 2202 个、丁级词 3569 个。甲级为最常用、最容易的字词，丁级使用的频率较低、较难的字词。
- 2) 『中検 4 級・3 級完全攻略 中国語単語 2000』洪潔清著 白帝社 2007.6 “全部” p37、“所有” p107、“一切” p41, 107

- 3) 状語名詞：名詞不经任何形式的语法变化，直接修饰动词、副词、形容词等，在句中用作状语的现象称为状語名詞。
- 4) 區別詞とは「只能在名詞或助詞“的”前边出現的粘着詞（名詞または助詞「的」の前にしか出ない粘着詞）。」朱德熙『語法講義』による。本稿において“所有”の動詞の使い方は考察の対象にしない。
- 5) 區別詞は非述（語）形容詞とか属性形容詞ともいい、分類や區別を表す。形容詞は叙述用法・修飾限定用法・補語用法があるが、この區別詞は形容詞の限定用法だけに使う。常に名詞を修飾して定語となるだけで、日本語では名詞である。ペアになるものと、単独なものがある。
- (ペア) 単-双 父-母 横-豎 金-銀 正-副 男-女 雄-雌
短期-長期 公人-私人 个别-共同 国立-私立 急性-慢性
間接-直接 旧生-新生 民用-軍用 天然-人為 无关-有关
新式-旧式 大型-中型-小型 初級-中級-(高級)
- (単独) 別 粉 私 本来 大批 初歩 非常 国产 固有 公共 快速 彩色 所有 袖珍 正式 业余
- ※ 例えば“男”や“女”は日本語では名詞だが、現代中国語では1字だけで名詞として独立して使われず、必ず“男人”とか“女人”という形式で、修飾用法でしか使われない。“金”“銀”は名詞として使うときは、必ず“金子”と“銀子”と言う。
- 6) 北京大学漢語語言学研究中心データベースは http://ccl.pku.edu.cn:8080/ccl_corpus/index.jsp?dir=xiandai である。用例検索について、“全部”“所有”“一切”をそれぞれ入力し、出た用例順で200以上の例を考察した。
- 7) 人民日報のデータベースは <http://data.people.com.cn/directLogin.do?target=101> である。2010年5月15日から30日の間に出了すべての用例を考察した。
- 8) 抽象名詞：性質・状態・動作など無形のものや、抽象的な概念などを表す名詞で、単数・複数の別はない。
- 9) 集合名詞：同一種属の人または事物の集合体を表す語で、家族、委員会、国民、団体、民族、クラス、聴衆などがあるが、同一の集合名詞でも、意味の相違によって、単数・複数の両様に用いられる場合がある。
- 10) “这只反应了问题的一个侧面，并没有反映出问题的全部”、“这只是一个方面，不是全部”、“要看全部，不要只看局部”。